



(公社) 岐阜県理学療法士会 広報誌

<http://gifu-pt.jp/>

らいちよう

2017
No.123



7月16日 西濃支部理学療法週間イベントにて

目次

巻頭言「下呂温泉にあつまろまいか」	2	会員の声	15
各部・委員会からの報告	3	賛助広告	18
支部活動報告	9	賛助会員	21

「下呂温泉にあつまろまいか」

第 28 回岐阜県理学療法学会

学会長 齋 藤 秀 幸

第 28 回岐阜県理学療法学会を平成 30 年 3 月 11 日（日）下呂市水明館で飛騨支部が主管となり開催させていただくことになりました。本学会のお世話をさせていただくことは身に余る光栄であります。開催期間も迫ってきて身の引き締まる思いで会員一同懸命に準備を進めているところであります。参加される皆さまにとって、有意義な学会となることを願っております。

さて、皆様ご存じのように、日本はいま、世界に類を見ない急速な少子高齢化を経験しています。65 歳以上の人口は、2017 年 3 月で 3,484 万人（国民の約 4 人に 1 人）、2042 年のピーク時は約 3,900 万人になると予想されています。団塊の世代（約 800 万人）が 75 歳以上となる 2025 年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれ、地域包括ケアシステムの構築が進められています。重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、また増加する認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを各自治体を中心となり行われております。総人口の増減は少ないが 75 歳以上人口が急増する大都市部、75 歳以上人口の増加は緩やかだが総人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。

そしてまた、地域の地理的環境の中に、特有の歴史・文化・生活のあり様など、地域の特異性が見られます。このため地域包括ケアシステムは市町村や都道府県が自主性や主体性に基づき地域の特性に応じた形で、介護、医療、生活支援サービスを提供する体制を作っていくことが求められています。そういったシステムの中、我々理学療法士に期待されていることは、身体作りの専門家、自立支援の専門家としての質の高い知識です。疾患や障害に合わせた、運動のプログラムやリスク管理を行い、生活再建や社会参加への方策の提案者として「介護予防事業」、「地域ケア会議」等へ積極的に参画していくことです。

そういった流れの中、本学会のテーマを「地域につなげる理学療法」とし病院という限られた世界から地域という開かれた活動の場へ大きく転換していく時代の認識、回復期リハビリテーション病棟は元より急性期を含めた病院でのリハビリテーションをいかに地域につなぐかを再考する機会にさせていただけたらと掲げさせていただきました。

特別講演には、岩砂病院・岩沙マタニティ 副院長兼リハビリテーション科部長 森 憲司先生をお迎えして、「回復期リハビリ病棟を中心とした多職種の専門性を活かしたチームアプローチの実際」をテーマにご後援を賜ります。我々が地域に出て活躍するために不可欠なものは、他職種との質の高い連携を構築することではないでしょうか。また、それは急性期を含めた病院から始まっています。長年リハビリテーション医療に携わり活躍されている先生のご講演は、有益ですぐに役立つお話と大変楽しみにしております。

今回の開催地である下呂温泉は天下の名泉。江戸時代の儒学者 林羅山は、下呂温泉を有馬、草津とともに「天下の三名泉」と称しています。会場となる旅館も全国的に有名な温泉旅館、観光地も近く、川原にある有名な露天風呂、下呂・飛騨グルメも沢山あります。発表の後、温泉に入って理学療法について語り合うもよし、のんびり気分転換を図るもよし、この地ならではの学会になるのではないかと期待しております。もちろん学会前日からご宿泊されることも大歓迎です。観光気分でご気軽に学会に参加されてはどうでしょうか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※「らいちょう 122 号 役員紹介」において学術局の紹介が欠落していました。
ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

■ 学術局

学 術 局 長	小 池 孝 康	岐阜保健短期大学
学 術 副 局 長	西 嶋 力	中部学院大学
研 修 部 長	三 川 浩 太 郎	中部学院大学
教 育 部 長	木 村 英 司	木沢記念病院
学 術 誌 出 版 部 長	岩 島 隆	岐阜保健短期大学
学 会 運 営 部	斉 藤 秀 幸	県立下呂温泉病院
	岸 本 泰 樹	各務原リハビリテーション病院

事務局よりお知らせとお願い

会員名簿について

事務局では、会の円滑な運営、会員相互の連携を図ることを目的として平成30年度に会員名簿（冊子）を下記のような内容で作成し、発送（各施設に1部）を予定しています。

会員の皆さまには、入会時に名簿への掲載希望の有無は登録して頂いておりますが、改めて名簿への掲載を希望しない会員の方は事務局までご連絡ください。

【名簿掲載内容】

- ・会員の所属する施設名・住所・電話番号・FAX
- ・所属する会員氏名・会員番号
- ・自宅会員の方は氏名・会員番号のみ

自宅会員登録の方へお願い

自宅会員の方で、会員登録先を所属施設に変更可能な方は手続きをお願い致します。県士会の財政負担軽減にご協力ください。

以上、会員のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。

連絡先

岩砂病院・岩砂マタニティ リハビリテーション科
(公) 岐阜県理学療法士会 事務局長 田中 利典
TEL 058-231-2631

ご注意ください

2018年から会費納入期限が変更になります

会員の皆さまへは（公社）日本理学療法士協会を通じお知らせがあったかと思いますが、2018年から下記の通り、会費納入期限が変更になります。ご注意ください。



来年(2018年)の年会費から、 会費納入期限が3ヶ月早まります!!

2018年度より、事業年度が開始する4月以前に、会費を納入いただくことになりました。

納入期限 3月31日

楽天カード

口座振替

2018年3月27日引落

引落登録のない方

2018年3月上旬より振込用紙順次発送予定

今までは6月末までに当年度会費を納入していただければ、会員としての権利をすべて行使いただくことが可能でしたが、2018年からは年度開始前の3月末までに納入がなかった場合は、4月より会員権利全面停止とさせていただきます。また、6月末までに納入がなかった方は会員資格喪失により退会となります。ご注意ください。

会員の皆様へご協力のお願い

＜4月以降の異動が決定した方＞
(特に県外へ異動される方)

2018/1/1以降、お早めに異動申請をお手続きください。
(2/20までに申請された方は異動先の士会所属としてご請求します)

＜2018年度の休会・復会・退会
を希望される方＞

2018/1/1～2/20にお手続きをお願いします。
(2/21～3/31の手続きは、年会費引落後に返金となる場合がございます。)

＜振込でお支払されている方＞
決済方法を楽天カードもしくは口座振替へご変更ください。

請求書が発送されてから納入期限までの期間が今までより短くなります。納入忘れのないよう、お早めに引落への切替えをお願いします。

詳細は、日本理学療法士協会HPの「年会費」ページまたはFAQよりお問合せください。

厚生部より

厚生部では会員の皆様の福利厚生で、ご結婚の際にカタログギフトを贈呈しています。

今年度ご結婚された会員の方、ご結婚される予定の会員の方がいらっしゃいましたら、是非ご利用ください。

申請方法

岐阜県理学療法士会のホームページ →
会員ページログイン → 各種届出 →
会員の結婚届出書 → 事務局にFAX →
カタログギフト贈呈

※結婚届を申請する場合は、連絡のとれる電話番号の記載をお願いしています。

何らかの確認でお電話を差し上げることがありますので、必ず連絡のとれる番号をご記入願います。058 - 276 - 7755 から番号通知しておかけします。ご協力をお願い致します。

厚生部では、下記の内容を実施しております。

- 1) 災害見舞金 会長の判断による。
- 2) 結婚のお祝い 会員の結婚に際しお祝いの品を贈る
(本人または他会員の申請による)
- 3) 弔 電 会員の両親、配偶者、子供死亡の場合は弔電。
会員外は会長が認めた場合。
- 4) 供 花 会員本人に不幸があった場合、供花を供える。
- 5) イベント助成 会員有志によるスポーツ大会・文化交流会などの助成。

上記以外にもご意見・要望、不明な点がございましたらご連絡ください。

連絡先

〒500 - 8288 岐阜県岐阜市中鷺2丁目99番地
TEL 058 - 276 - 7755 FAX 058 - 276 - 7733

介護老人保健施設 喜の里

名和 敏晃

学術誌出版部より

今年度より学術誌出版部に赴任しました岐阜保健短期大学の岩島隆と申します。毎年、岐阜県理学療法士会の学術誌が発刊されておりますが、今回は少しボリュームをアップしてお届けさせていただきます。今年度より学術誌を秋に発刊して行く予定です。次回からの投稿には投稿規定と執筆規定を設けましたので、岐阜県理学療法士会のHPもしくは岐阜県理学療法士会学術誌に掲載されている投稿・執筆規定を参考にしてください。執筆にて大きく変わった点が、「要旨」を加えて頂くようにしました。また、PowerPointをそのまま貼り付けるような事は避けて頂き、本文中に図・表を挿入するようにして下さい。文献の記載はバンクーバー方式を採用して下さい。

投稿に関しましては、研究等に日々努力している会員の皆様の成果として掲載して行く予定です。現在、岐阜県病院協会医学会と東海北陸理学療法学会大会、岐阜県理学療法学会で発表されたものを学術誌に掲載して来ましたが、その他学会で発表されたものも掲載出来るように検討しております。検討内容につきましては、次回のらいちょうもしくはHPにて掲載させていただきます。

会員の皆様に喜んで頂ける学術誌をこれからも作成して行く所存でございますので、よろしくお願い致します。

〈次回の掲載予定〉

- ・文献の記載方法について
- ・他学会での論文投稿の検討内容について

学会評議委員会より

県学会における「最優秀賞」「奨励賞」の表彰開始について

永年表彰制度の廃止に伴い、第28回の県学会から理学療法の普及・発展に優れた業績がある会員の演題に対し表記の表彰制度がはじまります。

この制度は、会員の皆様の臨床家・研究者としての意識高揚と理学療法研究の質の向上や発展、ひいては県民の健康増進に寄与することを目的としたものですので、大いにチャレンジしてください。

選考方法は、学会運営部の演題査読点から本賞にふさわしいものを選び、学会評議委員会にて決定いたします。結果は「らいちょう5月号」に掲載し、6月の定期総会にて賞状と賞品を贈呈いたしますので、ご承知のほどよろしくお願い致します。

「協会指定管理者制度」って知ってますか？①

県士会員の皆さん、こんにちは。岐阜県理学療法士会副会長の村雲です。

突然ですが、「協会指定管理者制度」をご存知でしょうか？この制度は、日本理学療法士協会が実施している管理者育成のためのシステムなのですが、これから皆さんに、らいちょうを通じて、この制度の重要性について、説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

初回は、この様なシステムが**なぜ必要なのか**という点について、説明させていただきます。

大きな理由の一つが、私たち理学療法士の**質の低下**が叫ばれている点です。現在、1年に約1万人の理学療法士が誕生し、全国の理学療法士の総数は、10万人を超えています。年齢的な内訳をみると、20代、30代前半が、圧倒的に多く、平均年齢は、約33歳で、若い理学療法士で構成されていることが分かります。臨床実習を経て、理学療法士となり、様々な職場で患者様の対応をする訳ですが、治療技術や知識、接遇面等において、対応力が追いついていない場面を見ることがあります。以前、半田協会長が、さすって1単位、散歩して1単位といった理学療法士の仕事ぶりを問題視されていました。こうした、質の低下は、私たち理学療法士という職種に対する信頼の危機となるでしょう。この、質を担保するためには、身近に適切な指導、教育を行う**管理者（指導者）**の存在が必要です。この、管理者の人材育成とネットワークを構築していくための制度が、「協会指定管理者制度」なのです。受講要件は、年齢や経験年数の制約はありません。業務上、責任ある立場で、組織から指示を受けて活動している会員が対象となります。具体的には、主任等の役職を持つ会員がそれに当たるでしょうか。自分の施設の部下や後輩だけにとどまらず、自分の地域の、あるいは圏域の理学療法士の仕事が地域住民の方々からの信頼を得ていくために、高い視点に立って、活動して頂きたいと思います。

次回は、この制度の具体的な目的や、研修の内容等について、説明させていただく予定です。なお、本制度の詳細な情報は、日本理学療法士協会ホームページにも、記載されています。興味がある方は、是非ご覧ください。



岐阜県委託事業「リハビリテーション多職種連携調査研究事業」活動報告

調査研究事業委員会代表 西 嶋 力

(公社) 岐阜県理学療法士会

(一社) 岐阜県作業療法士会

岐阜県言語聴覚士会

(公社) 岐阜県栄養士会

第1回研修会「食と運動」の多職種連携 ～フレイルの予防～

PT・OT・ST（リハビリ職）による多職種連携の推進を図ることを目的とした「リハビリテーションにおける多職種連携調査研究事業」を岐阜県より委託されております。本年度、四士会が協同して、このプロジェクトを進行しているところです。

調査に先立ち、『「食と運動」の多職種連携』をテーマとして、リハビリ職と栄養士を対象とした第1回研修会を開催しましたので内容を報告いたします。

最初の講演は、高橋浩平氏（理学療法士・NST専門療法士）により「フレイル、サルコペニアの概念と、栄養、運動の役割」について学びました。フレイルは、加齢に伴う様々な機能変化や予備能力低下により健康障害に対する脆弱性が増加した状態で

あること、サルコペニアは、筋肉量と筋力の進行性かつ全身性の減少に特徴づけられる症候群で身体機能障害、QOL 低下、死のリスクを伴うとの紹介がありました。加えて、成人入院患者（1万6千名）の半数以上が完食しておらず、食事摂取量の低下は死亡のリスクが増加すること、更に食事摂取量が低下した患者の半数は、栄養サポートを受けていないことも説明いただきました。

次に登壇いただいた加藤香里氏（管理栄養士：岐阜リハビリテーションホーム）には、「フレイルに対する栄養の役割」について学びました。成人から高齢期（65歳まで）は生活習慣病の予防教育・指導が必要であります。65～75歳では過栄養または低栄養者が含まれるため個別の栄養指導がポイントになります。80歳以上ではフレイル・低栄養状態に陥りやすいためフレイル予防が必要とのことでした。加齢に伴う食事摂取量減少のため、70歳以上ではエネルギー、たんぱく質、脂質などの栄養摂取量が減少し、低栄養状態は、筋たんぱく質の減少を加速させ、筋力の低下につながるために注意を要すると紹介がありました。栄養バランスと栄養素の役割、フレイル・サルコペニアの予防のための具体例として、たんぱく質摂取のタイミングを含めて説明いただきました。

PT・OT・ST・学生・栄養士、計90名の参加による研修会でした。（文責：西嶋 力 中部学院大）



- (1) アンケート調査を開始しています。どうぞ調査にご協力ください。（ホームページにて案内中）
- (2) 第2回「食と運動」の多職種連携研修会は、平成30年1月21日（日）に開催いたします。（近日案内予定）

（公社）岐阜県理学療法士会 （一社）岐阜県作業療法士会 岐阜県言語聴覚士会 岐阜県委託事業 アンケートにご協力ください 多職種連携調査研究事業

今年度は栄養士と連携を深めることを目指しています！
「リハビリテーション専門職と栄養士の連携調査（アンケート）」をPT・OT・STを対象に実施します。同時に栄養士会にも調査中です。
連携の現状を把握し、連携深める提案をさせていただきます。
内容は18項目の設問（回答時間は3～4分）です。

アンケートの実施期間は

『10月1日～11月30日』ですが。。お早めに！

さあ！アンケートの入口はこちら！



または

<http://urx2.nu/G6BN>

まずはアクセスしてみてください。

多職種との連携推進を図ることを目的とした「リハビリテーションにおける多職種連携調査研究」の委託事業に取り組みますのでご協力ください。

■問い合わせ：西嶋力（中部学院大学）
nishijima@chubu-gu.ac.jp



平成 29 年度 中濃支部研修会 活動報告

日 時：平成 29 年 7 月 31 日（月）

18：30～20：30

場 所：木沢記念病院 中部療護センター

テーマ：「アイシング（冷却療法）」の実際

講 師：東白川村地域医療センター

伊神 和史 先生

今回の中濃支部研修会は、東白川村地域医療センターにて地域医療・高齢者対策に従事されながら、アスレチックトレーナーとしてスポーツ分野でも幅広くご活躍されている伊神和史先生に御講義頂きました。



内容はアイシング（冷却療法）の分類・歴史・理論・実際の方法や種類・留意点などを座学として1時間ほど学んだ後、実際にコールドパックやブロック氷などを使用して、アイシングの効果や危険性を参加者全員が体験できる内容となっていました。急性外傷に対しての具体的なアイシングの方法や理学療法プログラムを実際の経験や治療実績と照らし合わせて紹介して頂きました。アイシングを実施するには血管・細胞レベルで起こる現象についてまでしっかりと理解する必要があること知り、改めてその効果と危険性を知ることができました。個人的には、スポーツの現場において、限られた時間の中でいかに選手のパフォーマンスを高めて結果に結びつけられるかというアスレチックトレーナーとしての見解や経験談について、特に興味深く聞かせて頂きました。

平日の勤務後の研修でありましたが、50名以上



の参加者は疲れた顔も見せず、興味深く講義に聞き入り、アイシング体験ではみな和気あいあいとして、終始和やかな雰囲気での研修会だったと思います。



最後になりましたが、ご多忙のところ大変に参考になる講義をして頂きました伊神先生、ありがとうございました。

また、会場設営をして頂きました木沢記念病院の先生方に感謝の意を申し上げます。

中濃支部広報部 可児・加茂地区担当

可児とうのう病院 附属介護老人保健施設
リハビリテーション係

加 地 覚

平成 29 年度東濃支部学術研修会報告

日時：8月27日（日） 13：00～16：30

場所：東濃厚生病院 健康管理センター2階会議室
リハビリテーション室

テーマ：『急性期における理学療法介入の考え方』

講師：中津川市民病院 理学療法士 曾我卓馬先生

アシスタント：中津川市民病院 理学療法士

今井則之先生

参加人数：23人（スタッフ含）



今回は、中津川市民病院の曾我先生、今井先生をお招きして、急性期における理学療法介入の考え方についてご講演頂きました。前半の座学では、急性期における患者様の身体・心理的な状態について、様々な視点からご説明頂きました。早期離床はメリットが多く重要ではあるが、離床ができる状態であるかの評価を誤って離床することで生じるデメリットについても学ぶことができました。

後半の実技では、ベッド上での体位変換、寝返り、起き上がり動作について患者様視点で体験することを目的に、グループに分かれてこれらの動作介助を行いました。その際に、雑に介助した時と丁寧に介助した時に、介助された側は「どう感じるか」、歪んだ臥位姿勢でしばらく過ごす身体にどんな感覚がするかを皆でフィードバックし合いました。講義の中でもありましたが、体位変換やオムツ交換なども「運動」であり、これらの刺激全てが患者様に影響することを学ぶことができました。この体験を元に、相手の反応を感じながら頭部挙上から誘導して起き上がりにつなげる実技を行いました。「相手の反応を感じる」ことの難しさを感じつつも、楽しくあっという間に時間が過ぎてしまい、充実した内容であったと思います。



最後に、貴重な時間を割いてご講演頂きました曾我先生、アシスタントを務めて頂きました今井先生、準備に携わってくれたスタッフの皆様、準備や後片付けを手伝って下さいました会員の皆様に心より御礼申し上げます。

東濃支部学術研修担当

浅井 智也

西濃支部公益事業報告 2017

西濃支部では年間3回の市民健康イベントへの参加を実施し体力測定などを実施しています。今年度の活動を報告し協力いただいた会員の皆様への感謝をお伝えします。



一つ目に、去る5月14日にいびがわ健康福祉フェアへの参加協力を無事に終えることができました。体力測定という、いわばきつい体験ブースを運営していますが、例年多くの住民参加が得られます。今年は10時から13時という短い開催時間の中で、97名の皆様に体験していただくことができました。西濃支部の活動として2009年より続き、毎年こうした参加が得られることは、大変ありがたい事で

す。中には、“今年もきました”と顔なじみになった参加者の方も見え、体力の比較指標に使ってみる方もいます。参加スタッフについては、揖斐郡医師会の要望から揖斐郡リハビリ会という郡単位の組織を作りましたので、そこでの募集から参加いただきました。今後は地域包括ケア、高齢化対策のための予防活動の礎として、住民と地域の理学療法士を繋ぐ、草の根活動として評価されてゆくものと推察致します。



二つ目に、平成 29 年 9 月 23 日（土）養老町中央公民館で養老町社会福祉大会が開催されました。5 項目の体力測定、相談窓口を設置し、約 50 名の参加者に 10 名のスタッフで地域交流らしい明るく楽しい大会となりました。参加者のほとんどの方は測定結果、評価から熱心に質問や相談をされていました。なかには去年の記録用紙を持って比較される方もいました。また養老町にある 4 施設からスタッフの協力が得られ、施設間の交流の場としても有意義のものになったと思います。今後も数少ない地域に貢献できる場として企画運営していきたいと思えます。最後に、参加者の方々やご協力いただいた関係機関、協力いただいたスタッフの方々に感謝の意を申し上げます。



三つ目に、平成 29 年 10 月 15 日（日）大垣城ホールにて大垣市主催の第 22 回市民の健康広場が開催されました。健康チェックや役立つ知識を学ぶことを目的に、28 団体が各ブースにて展示、測定、検査、相談等を行いました。当支部は 5 項目の体力測定を行い、その後測定結果等の説明を丁寧に行いました。測定の参加者は 142 名で、10 歳以下から 80 歳台まで幅広い年代の方に参加していただきました。毎年行っていることから、昨年の測定結果を持参され、比較しながらどのようなことに気を付けたいかと熱心にアドバイスを聞かれる方もみえました。今回は 10 名のスタッフで楽しく行うことができ、今後も地域のイベントへの参加を継続していきたいと思えます。関係機関、協力して頂いた理学療法士会会員の皆様ありがとうございました。

西濃支部 支部長
辻 量 平

平成 29 年度 飛騨支部第 1 回研修会報告

日時：平成 29 年 10 月 8 日（日曜日）

10：00～11：30

場所：飛騨・世界生活文化センター 食遊館 2 F

第二会議室

参加人数：30 名（スタッフ 3 名含む）

テーマ：「身体栄養面を考慮した外科治療とその展望
～リハが手術に関わるなら」

講師：公立穴水総合病院 外科医 松井亮太 先生

近年飛騨支部が研修会を開く際、飛騨地域内の PT に講師を依頼していましたが、今回、飛騨支部会員の要望もあり、外部から講師を呼ぶことに致しました。いろいろと選考をした結果、リハ栄養に詳しい石川県公立穴水総合病院に勤務している外科医の松井亮太先生にお願いする事が出来ました。

当日は秋の高山祭、飛騨地域全体でおこなわれるトリアージ訓練、福祉介護に関する講演もある中、30 名もの会員が参加してくれました。

1 時間 30 分の講演でしたが、講師の松井先生が熱意をもって 100 枚ものスライドを作ってください



り、大変熱の入った講演をしてくださいました。講義はサルコペニアの定義、予防などから始まり、サルコペニアの予防には術前からのPTの介入の必要性や、急性期・回復期・慢性期別のPT介入の仕方など、エビデンスを交えながら分かりやすく講義をしていただきました。今回飛騨支部研修会では初めて飛騨支部以外の外部講師を呼びましたが、県外のPTの支部研修にも関わらず早く講師を引き受けてくださいました、講師の松井亮太先生には大変感謝しています。今後も飛騨支部は岐阜県士会会員のためにより良い活動を続けていきたいと思っています。次回の研修会のみなさまの参加をお待ちしています。



(公社) 岐阜県理学療法士会 飛騨支部公益事業部 活動報告

平成 29 年 10 月 14 日 (土)、J A ひだアグリパークにて開催されました『第 22 回 J A ひだ農業まつり』に総勢 7 名のスタッフで参加しました。



活動内容は

① 理学療法士の活動紹介

② リハビリテーション体験

- ・セラプラストでのビー玉探し (宝探し)
- ・握力測定 (握力チャレンジ)
- ・ボールプールでの物探し (ボール探しゲーム)

を行いました。

当日は曇り空で低温の予報でしたが多数の人が参加して頂き、また途中、日も差すこともあり暑い中で活動することができました。ここ数年飛騨支部公益事業部はこの『J A ひだ農業まつり』で活動を行っており毎年大勢の方に参加して頂いています。今年も約 400 名の方に参加して頂けました。



親子の参加が多く、リハビリテーション体験では子供たちはセラプラストやボールプールでの体験がとても人気があり、順番待ちをする時間帯がありました。

した。また、理学療法の活動紹介では実際に使用するセラプラストでの硬さの違いのある物を使用して、能力によって使い分けていることなどを説明すると関心を持たれました。また、「理学療法士ガイド」などのパンフレットも配布しながら理学療法の活動内容も伝えることができました。

大勢の方に理学療法士を知って頂けたかと思います。今後も理学療法士が地域で必要な存在でありたいと思います。

飛騨支部公益事業部スタッフ一同
平成 29 年 10 月

第 23 回 健康・福祉すこやか フェスティバル 活動報告

日 時：平成 29 年 10 月 22 日 9：00 ～ 15：00
会 場：美濃加茂総合福祉会館
スタッフ：3 名
理学療法ブース利用者：59 名

平成 29 年 10 月 22 日（土）、台風による悪天候のなか、岐阜県理学療法士会中濃支部による社会福祉事業活動として、美濃加茂市で開かれた「美濃加茂市 健康・福祉すこやかフェスティバル」にて、市民を対象に運動体験・相談会を行いました。



このフェスティバルは、毎年、美濃加茂市で開かれており、理学療法士だけでなく医師や保健師、管理栄養士など様々な医療関係職種が関わっています。参加された市民の方々は、「健康づくりコーナー」において体組成測定・血管年齢測定・骨密度測定・足圧分布測定など行われていました。岐阜県理学療法士会は、その結果を受けて運動相談にみえる方や、



運動指導を希望された方を対象に、個別での運動相談を受けさせて頂きました。

当日の利用者は 40 歳代～ 80 歳代までの 59 名（男性 8 名、女性 51 名）と女性が圧倒的に多く相談にみえました。相談内容としては、腰・膝・肩などの関節痛や生活習慣病に関するもの、筋力、体力の低下を予防したいとの理由でロコモ体操へ関心を持っている方がみえました。ロコモという言葉は聞いたことがあるけれども、内容や推奨されている運動があることは知らない方がほとんどでした。予防への関心を持って頂く良い機会になり、またこのような場の必要性を感じました。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さいました事を、この場をお借りしてお礼申し上げます。

木沢記念病院 星屋慈実

中津川市予防事業・ 介護予防教室を終えて

恵那医院 小島 健嗣

今回、岐阜県理学療法士会主催での介護予防教室を 8 月から 10 月初旬まで当院スタッフで実施させていただきました。以前から外来患者様やデイケア利用者様からは開催を希望される声をいただいております。そこに今回、県士会からお話をいただき、このような機会を設けることが出来ました。この場を借りて県士会会長を含め、ご尽力いただいた東濃支部長に深く感謝を申し上げます。

従来の介護予防教室というとセラピストが会場で提案した体操やストレッチなどを参加者の方に実施していただくというのが一般的でしたが、今回は参加者の方が普段からご自宅でも実施出来るよ

う実施内容を事前にファイル化してお渡しし、ご自宅でもおこなっていただくことを目標に実施しました。



体操の回数や頻度は個人にお任せし、無理せずに運動習慣を作っていただくことを目標としました。運動内容によっては出来るもの出来ないものがあるため、出来ない方には代替えとなる他の運動を提案させていただき無理をしないように声掛けすることに努めました。どうしても多数人数で実施すると周りの目を気にして無理しすぎてケガにつながる人が多い『他人は他人、自分は自分』と意識づけ出来るように何度も言い続けました。



参加者は介護保険非該当の方から要支援2までの方々でしたが、負荷が弱い・強すぎるなどのご意見も無く終了することが出来ました。負荷の強弱に関しては運動時間・運動速度・運動回数を適宜変えることで幅広い対象者でも対応出来るのではないかと感じました。

開始日と最終日に握力・開眼片脚立位・TUGを測定させていただきました。すると各項目にばらつきはあるものの7割程度の参加者で向上を認めました。参加者の方からは『最近、体が軽くなった』『歩くのが速くなった』『次回も続けて参加したい』というご意見も頂戴することが出来ました。

今後の課題として、介護予防事業に関しては地域住民が主体となって進めていくことが求められています。そのために我々セラピストは地域の中でリーダーとなっていただけの人材を育成することが重要だと考えます。今回、実施内容をファイル化してお渡ししたことで自主運動は分かりやすく自宅でおこなうことが出来たというご意見をいただきました。これからはリーダーの育成方法を考えることと、またリーダーを育成するセラピストも同じ伝え方が出来るように勉強していく必要があると強く感じました。



きたる 2025 年の超高齢化社会に向けて我々理学療法士が医療・介護保険費の抑制の一助となることはもちろん地域住民の皆さまが明るく自分らしく健康寿命を全うしていただけるよう介護予防事業に積極的に取り組んでいくことが我々の職域確保にも繋がるものと思います。

< 会 員 の 声 >

挑 戦 の 法 則

デイサービスセンター Q-net

金 田 成 九

大学を卒業しアパレルの営業をしていた私は 35 歳で理学療法士の免許を取得し、今年で 15 年が経ちます。理学療法士になりたての頃、いつかは開業したいと独立開業権が出来る事を夢見ていました。病院勤務の 10 年間でリハビリテーション科室長、デイケアセンターセンター長、居宅支援センターセンター長を兼務し医療、介護の理学療法士をしてきましたが、一向に独立開業権の話は出てきませんでした。

デイケアセンターセンター長時代にデイケアセンターの立ち上げに携わった時、開業ではなく起業は出来るのではないかと考えました。私にも資金があればいつかは起業したいと思いが芽生えました。その思いを残し病院を退職、その後大学の教員として教育の場で理学療法士をすることになり起業への思いは消えかけていましたが、大学院に通い経営学修士を取得した頃、起業への思いがよみがえりました。

しかし、いざ起業をしようと思うと銀行融資がうまくいくか、設立後は資金ショートによる倒産はしないかと不安がいっぱいでした。その時に思い出したことが以前飲食店で食事をしているときにトイレを借りたら、そのトイレには心に残る格言が書かれていました。それは「挑戦の法則」です。「挑戦の先は成功か学びしかない、でっかい挑戦の先はでっかい成功かでっかい学びしかない、失敗とはなにもしないこと行動しないこと」でした。

この言葉を信じ、銀行周りを始め融資の相談をしてきました。断られた銀行も数多く、心が折れそうになりましたが融資をしてくれる銀行と出会い、昨年（平成 28 年）7 月に株式会社キューライフを設立し、今年（平成 29 年）4 月にデイサービスセンター Q-net を開業することが出来ました。開業当時は利用者様も少なく不安の日々でしたが半年が過ぎ一日平均 20 名以上の利用者様が集まり、実際は赤字ですが経営はうまくいっています。

今振り返ると挑戦をするときは不安と苦しみが付きまといましたが、それを乗り越えるといろいろな経験が私の財産となりました。現在、会社に「挑戦の法則」を社訓として掲げています。何事も挑戦、今後も挑戦し続け開設した会社を地域に愛される企業に育て、地域で活躍できる理学療法士を目指し、引き続きがんばっていきたいと思います。

日本とアメリカのリハビリ事情と 今後に思うこと

海津市医師会病院リハビリテーション科
訪問看護ステーション

先 山 悦 子

早いもので、理学療法士として臨床に出て 10 年が経過しました。この 10 年でリハビリ職を取り巻く環境は大きく変化し、今後も医療・介護保険の改定とともに雇用情勢は大きく変わりうる事が予測されると思います。10 年前には珍しかった起業するリハビリ職も現在はそれほど珍しくなくなりました。もう 12 年も前のことですが、私がシェアできることといえばアメリカのリハビリ事情とそこで見てきたものくらいだと思いますので、今回はそれについて書きたいと思います。

アメリカでは医療保険は国民皆保険ではなく、リハビリ職のエントリーもすべて Dr. クラスでした。また、カルテ記載は正式には Health Information Manager がすべて管理しており、各専門職が保険診療報酬を請求する仕組みで、開業権があるアメリカでは、様々な分野で開業している Dr.PT 達がありました。まだ学生だった 2003 年の 9 月、単位互換制度を利用しカリフォルニア州の総合医科大学へ編入し、リハビリ以外にも予防医学や健康科学分野の研究や栄養医学など、幅広く学び、2005 年の 12 月に帰国しました。アメリカの学会での発表に向けての準備に夜遅くまで居残りしたことや、ナショナルオリンピックセンターで投球動作のモーションアナリシスの測定指導を受けたり、ロサンゼルス近郊の病院やクリニックなどを回り見学させていただいたことも貴重な経験となりました。また脳血管の評価がブルンストロームではなかったこと

や、高度専門病院やメディカルセンターでは最新治療や専門治療をしてはいたものの、日本のようにアロパシー医学一色ではなく、西洋医学と予防医学がきちんと棲み分けされていたのも印象的でした。国民皆保険ではないアメリカでは、内科分野でも腸洗浄をするクリニックや自然療法専門クリニックがあったり、日本との違いに衝撃を受けたことも少なくありませんでした。世界標準の厳しさと語学の壁とは裏腹に、熱心に指導してくださる教授や語学を助けてくれるスピーチの学生たちや日曜日に教会で出会った卒業生に助けられた日々でもありました。

10年という区切りで気持ち的にも余裕が持てるようになったこともあり、末邦訳の専門書をアメリカやイギリスから取り寄せて勉強も始めました。三重・神奈川と転々とし、まだ岐阜では2年を過ぎた新参者ですが、どうぞよろしくお願い致します。

独 立

特定非営利活動法人はびりす
鹿 野 昭 幸

理学療法士になって13年目の年、勤めた町立病院を退職、当時の仲間と今年1月に「NPO法人はびりす」を設立、起業しました。目的は理念を共有する仲間とともに、自分たちの責任のもと、「遊びを仕事をしたい!」と思ったからです。〈遊び—知能を有する動物（ヒトを含む）が、生活的・生存上の実利の有無を問わず、心を満足させることを主たる目的として行うものである。〉

職員一人一人が「はびりす」の舞台で、共有理念のもと、個々の強みを生かし、利他を目的とした「やりたいこと」「実現したいこと」を自らの裁量で企画・運営しながら、人を育てていく環境をつくる。そんな会社づくりを目指しています。起業にあたっては記憶喪失になるほど壮絶な日々でした。法人登記からはじまり経営・労務・保険知識、運転・設備投資などの資金繰り、人材確保、そして顧客確保のためのマーケティング、そして家族の心配などなど、あらゆる知識や行動力、人とのつながりを要求され、同時進行で目紛しく進む毎日でした。そんな毎日の中、もうすぐ1年を迎えようとしています、

起業を通して改めて「仲間」の大切さを実感しました。それぞれが長所もあれば短所もあり、凸凹の人間の集まりです。しかし、徹底した意志の疎通とチームワークでお互いの長所を埋め合い、様々な難局も乗り越えてきました。そのような恵まれた仲間と切磋琢磨しながら、仲間のために汗をかきつづけることで、はびりすを利用する方々にも満足いただけるサービスを提供できていると感じています。

僕の好きな自由人、高橋歩氏の言葉「大人が真剣に遊べば、それが仕事になる」。独立を通して今それを実感しています。

今年は開設から運営で精一杯の年となりました。来年からは、「盛和塾」に入塾し、本格的な経営を学ぶとともに、職員・利用者・社会貢献にできるような運営システムや企画を通し、地域・世界へ発信していきたいと考えています。

最後になりましたが、「はびりす」とは何か、当初の目的の通り、職員が「遊び」、そして「遊び」を提供する場所です。興味のある方は是非「NPO法人はびりす」で検索してみてください!

「岐阜県理学療法士会剣道研究会」 発足ならびに会員募集についての ご 案 内

日頃、お忙しい理学療法業務の合間を縫って、ひっそりと剣士として修業を重ねてみえる方、学生時代はやっていたがそろそろ復帰を検討している方、是非とも一緒に剣道動作について語り合い、試し合おうではありませんか。

理学療法士としての知識をフル動員し、効率よくケガの無い稽古をすることによって、試合や昇段審査に臨もうではありませんか。

人数が集まれば、そのような場を設ける予定です。

「面白そうだ」と思われる方は、以下のメアドへご一報ください。

剣道経験者の情報のお持ちの方もお知らせくださいませ。

以上、ご連絡を心よりお待ちしております。

※返信が無い場合は、再送をお願い致します。

世話役

榎林 優（木沢記念病院）

kendoukanisibu@yahoo.co.jp

会員の皆様へ

現在、最新の協会＆県士会ニュースを「岐阜県理学療法士会」フェイスブック＆ツイッターにて発信しています。

是非、フェイスブックで「いいね!」、ツイッターで「フォロー」していただき、情報を共有しましょう。

「岐阜県理学療法士会」で検索していただくか、県士会ホームページから入ることができます。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

m(_ _)m

フェイスブック

<https://www.facebook.com/gifupt>

ツイッター

<https://twitter.com/gpta2012>



H29 賛 助 会 員

会 社 名 ・ 施 設 名	電 話 番 号
有限会社 加納ビジネス 〒 500-8456 岐阜県岐阜市加納大黒町 2 - 32	TEL 058-273-3007 (代)
有限会社 中部義肢 〒 486-0911 愛知県春日井市西高山町 3 丁目 16 - 122	TEL 0568-34-7143
岐阜保健短期大学 〒 500-8281 岐阜県岐阜市東鶉 2 丁目 92 番地	TEL 058-274-5001
東名ブレース株式会社 〒 489-0979 愛知県瀬戸市坊金町 271	TEL 0561-85-7355
株式会社 松本義肢製作所 〒 485-0805 愛知県小牧市大字林 210 - 3	TEL 0568-47-1701
学校法人誠広学園 平成医療短期大学 〒 501-1131 岐阜県岐阜市黒野 180	TEL 058-234-3324
中部学院大学 〒 501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘 2 丁目 1 番地	TEL 0575-24-2211

編集後記

らいちょう 123 号作成に当たり、巻頭文・会員の声の原稿依頼を快諾して、ご協力下さいました、斉藤秀幸氏、金田成九氏、先山悦子氏、鹿野昭幸氏に感謝致します。
この場を借りて、お礼申し上げます。

この間ふいに、スタッフ間で夢の話になりました。
「宝くじが当たったら……!!!」「何億円あったら……!!!」というよくあるテーマです。
誰でも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。
「世界一周旅行に行く!」「利率のいい貯金する!」「体育館造る!」「いつもは買えない化粧品
買う!」「3千万くらいの車買う!」とかで大盛り上がり!!
で、一通り夢を発表したら、「まず宝くじ買ってないよね…」で鎮火です。(笑)
“夢”の熱量は一個人の中でも人と比べても多種多様で、この夢は夢のままでいいと空想に浸
ることで満たされるような夢もあれば、この夢は今生で叶えたいと強く願う夢までさまざま
です。そもそも夢の定義なんてあるようでないのだから、私が思う“夢”よりもっと、いろんな
夢の解釈があるのかもしれません。人の夢と比べたりカテゴライズするのは、時間の無駄かも
しれませんね。

皆さまはどんな夢をお持ちですか?

(S)

公告掲載のご案内

士会ニュース公告掲載のお問い合わせ・申し込みにつきましては
広報部までお願いいたします。

広報部

〒503-2417 揖斐郡池田町本郷 1551-1

医療法人社団橘会 新生病院

リハビリテーション科 伊藤康行

TEL.0585-45-3161 FAX.0585-45-3255

E-mail: shinsei4@octn.jp

2017. 11. 25

発行人：公益社団法人 岐阜県理学療法士会

会長 舟 木 一 夫

事務局：〒500-8384 岐阜市藪田南1丁目11番12号

岐阜水産会館 601号室

TEL・FAX (058) 277-6166

編 集：伊藤康行

印刷所：(有)いすくら
